

西山ファミリー環境探検隊 春の自然観察会

日時 2022年4月30日 9:30~12:00

場所 西代里山公園～西山キャンプ場周辺

天候 五月晴れ 少し肌寒し

主催 西山森林整備推進協議会

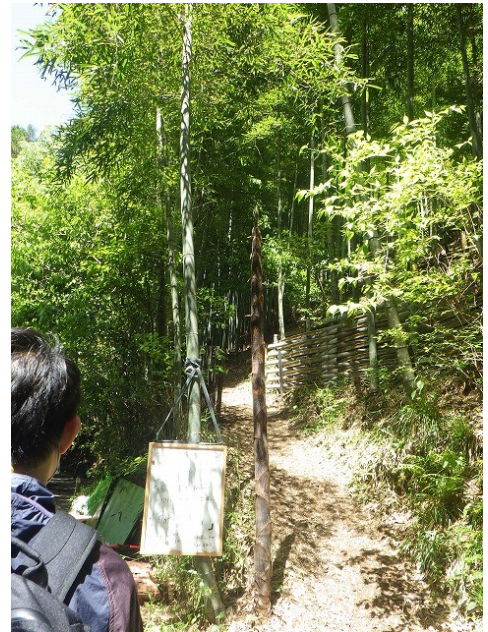
協力 NPO 法人自然観察指導員京都連絡会・長岡京市環境の都づくり会議
他2団体

参加 本会スタッフ7名 一般参加者8名・長岡京市 中小路市長・
他団体スタッフ/京都府立大学学生サークル「森なかま」



新型コロナウイルス禍で開くことが出来なかった西山ファミリー環境探検隊「春の自然観察会」が3年ぶりに開かれました。3組のファミリーが参加。参加人数8名（小学低学年4名・大人4名）で、スタッフの方が多い自然観察会になりました。その中に公務を離れて参加をされた長岡京市 市長 中小路健吾氏の姿もあって探検隊員9名＋スタッフ大勢で自然観察会が始まりました。

5月も目の前の西山は竹の黄葉とシイのクリーム色の花と様々な色をした若葉で山が美しい。山が笑っています。探検隊の“しおり”にアカメガシワの葉っぱスタンプを押し、秋の収穫が楽しい、さつま芋の苗を植えるミッションも完了しました。さあ！キャンプ場へ向かいましょう。

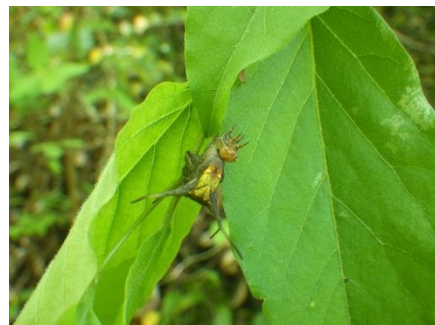


タケを観察

ここ西山の里には、道端や空き地等の至る所で見かける草花“オニタビラコ・ニガナ・タンポポ・カタバミ等”の黄色い花が咲いています。その中からコウゾリナの茎葉を触る観察と名前の由来話しに耳を傾けました。茎や葉の硬い毛を触ると手が切れそうな感じがする事から、剃刀菜⇒顔剃菜が転じてコウゾリナになった説に「なるほどねー」。傍の男の子に「コウゾリナでお父さんの髭が剃れるかな」と話しかけたらクスッと笑われた。



観察風景



クロモンキリバエダシャクの幼虫

野あそび

カタバミの草汁で 10 円がピカピカ。カラスノエンドウとタンポポの草笛。噛むと酸っぱいイタドリ・甘いアマチャヅル・苦いニガナ。見分が難しいカスマグサとスズメノエンドウ。たね飛ばしが楽しいムラサキケマン。ウラジロで作るウラガエルとグライダー等々の草遊びを楽しみました。野の草花は季節が進むと草刈り機で刈り取られます。残念ですが畑近くの草花だから仕方がないですね。湿った土を好む植物のネコノメソウ・チャルメルソウ、ウマノアシガタ・ツルカノコソウの観察もできました。



カタバミやイタドリで 10 円玉磨き



店開きの様子

下見での出来事

「きゃあ！へび」驚いて退く看護師さん。

「シマヘビや！」と言って捕まえた長岡京市の職員さん。

「違う！それはヤマカガシ」。「赤茶色と黒い斑紋が特徴。これに噛まれたら厄介やで、マムシより 3 倍強い毒がある。マムシのように血清は何処にでも無いらしい等々」。宮城さんの話を聞いた看護師さんは毒蛇と聞いてさらに驚いています。職員さんは平常心の様ですが・・・私は心密かに「内心は毒ヘビと聞いて驚いたに違いない」思った。面長の顔にくるりとした大きな目は可愛い。だけど出会いたくない生き物の一匹です。沢に逃がしたヤマカガシは何事もなかった様に岸の草むらに消えた。

(久間孝子)

林道に入るとミツバアケビの葉っぱに大きな目玉模様のアケビコノハの幼虫を見つけて「この幼虫は珍しいですよ」と声掛けをすると虫が苦手な子も近くに寄って観察ができました。触ってベタベタするモチツツジの蕾はふくらんで、もうじき咲きだしそうです。鳥の囀りは人間の話声に消されて私の耳には届きませんでした。生き物の出番が少ないと思いながらの山道でしたが、子供達が持つ虫かごには、カナヘビ・センチコガネ・ナナホシテントウムシが入っていました。肌寒く感じた気温は上がって、キャンプ場ではコムスジとトンボが飛んでいました。(何トンボか?)



ウラジロで遊ぶ